

平成22年度 農地整備学 期末試験問題

担当：九鬼康彰（農村計画学分野）

問題は5題、最後にアンケートが1問あります。解答用紙には必ず、問題番号を各解答の最初に明記すること。なお、問題ごとに解答用紙を替える必要はありません。

1. 図1は低平地の圃場整備済み地区における区画の長短辺長の関係を表したものである。
- (1) 図では三潞地区を除き、区画の長辺長はいずれも標準区画を上回っているものの、短辺長に比べるとその上限は小さい。そこで、①長辺長の最大限度を規制する要因をあげ、それらの内容を具体的に説明しなさい。また、②八郎潟地区のように区画の短辺長を伸ばす方法とその際の留意点について説明するとともに、③圃場整備の際に、どのような考えが実現されていれば将来的な短辺の伸長を可能にするのか、用語とその定義を答えなさい。
- (2) 区画の拡大においては、日本農業の特徴の一つである零細な経営規模が制約条件の一つに数えられる。この社会的条件を解決する方法を具体的に述べなさい。また、経営規模以外に考えられる制約条件をあげなさい。

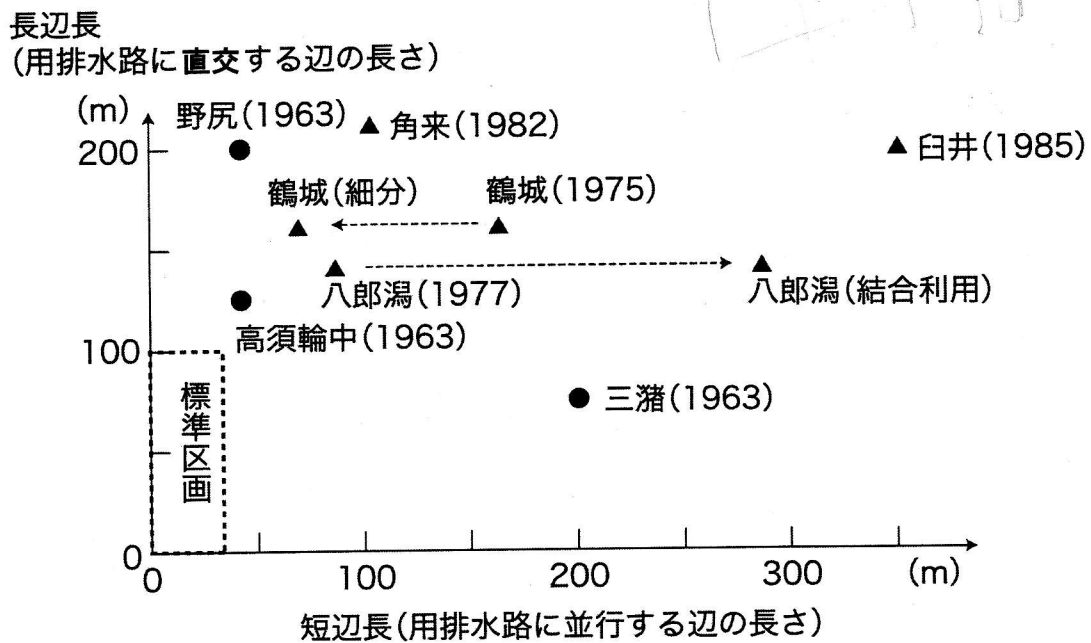
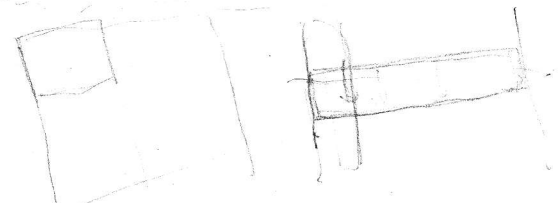


図1 水田区画の長短辺長

2. 表1は畑地の各土壌に関する問題点とそれを原因とする栽培上の課題、そしてそれらを解決するための土層改良の種類を表している。
- (1) 表1のA~Fと①~⑥、ア~カに入るものをそれぞれ次ページの選択肢欄から選び、解答用紙に表1を完成させなさい。